

観点別特色一覧表

学習指導要領との関連


●教科目標

観 点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
①具体的な活動や体験を通じた学習になっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●活動や体験の内容ごとにテーマをもった単元構成となっているため、単元の流れが把握しやすく、具体的な活動を通して「何を、どのように学習する」が非常にわかりやすくなっている。 ●各単元冒頭では、子どもの思いや願いを喚起する台詞やテキストを示すことで、具体的な活動や体験を通して、子ども自らが解決していくことを促す構成になっている。
②身近な生活に関わる見方・考え方を生かしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●4人のキャラクターのつぶやきやカードの中で子どもが自然に見方や考え方を生かしていけるように設定されている。 ●各単元冒頭ではキャラクターたちの対話場面を配置することで、子ども自身の経験を思い出し、活用できるよう配慮されている。
③学習を通して、自ら自立し生活を豊かにするよう配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●単元末に「もっと」ページを配置し、単元が終わった後も学んだことを生かして、意欲的に活動を持続・発展できるようにしている。
④活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けられるようになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●単元全体を通して、子どもの身近な人々、社会、自然と直接関わる場面が数多く設定されている。また、各単元が長期的に継続した活動として設定されているので、人々や社会、自然といった対象と繰り返し関わり、「気付き」を深めていけるように配慮されているとともに自分自身との関わりで考えられるよう工夫されている。 ●習慣や技能は、各単元において「やくそく」「ものしりノート」などのコーナーとして示すことで、それらを学習するという形ではなく、活動や体験の中で、子どもの思いや願いを実現する過程において身に付けられるよう工夫されている。 ●手洗いに関しては、左ページの右上にマークを配置し、手洗いの習慣を意識させるよう工夫されている。
⑤身近な人々、社会および自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるように工夫されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●各単元において自己決定の場面を大事にしており、主体的に活動していく中で、自分や自身の生活について考えられるよう構成されている。 ●身近な人々、社会および自然との関わりをカードなどに記録していくことを重視しており、単元末ではそれらを多様な表現でまとめ、ふり返れるよう構成されている。
⑥身近な人々、社会および自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養うように配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●全単元を通して、キャラクターや写真によって子どもたちが意欲的に活動している様子が取り上げられている。また、ふり返る場面が充実しているため、子どもたちが自身の成長やよさに気付けるよう配慮されている。 ●「もっと」のページには、活動を通して自信をもった子どもたちが、さらに意欲をもって取り組める活動などを示している。

●学年目標

観 点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
①学校、家庭および地域の生活に関わることを通して、自分と身近な人々、社会および自然との関わりについて考えることができ、それらのよさやすばらしさ、自分との関わりに気付く、地域に愛着をもち自然を大切にしたり、集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするように配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●単元を通して、対象と関わることや対象の気持ちになって考えること、自分や周りの人についての気付きや自分との関わりで考える事を大切にしよう配慮されている。 ●他者との関係については、子どもの発達段階を考慮した扱いとなっている。上巻前半では身近なグループとの関わりを基本にクラス全体との関わりへと広げており、上巻後半では年下の子どもや、地域の高齢者、身近な大人との関わりに気付くよう構成されている。▶上 37、93、100、114-115 ●下巻『まちたんけん』では身近なまちのよさに気付かせ、『あの人に会いたい』では出会った人々へと視点を広げることで学びが深まるよう構成されている。▶下 2-21、22-37 ほか ●下巻最終単元『わたしたんけん』では、これらを統合した形で、「できるようになった今の自分」を中心に、友達、家族や社会の人々という構造を一枚の紙にまとめ、それをもとに自分の将来を思い描けるよう構成されている。
②身近な人々、社会および自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動の良さや大切さに気付き、自分達の遊びや生活をよりよくするようにする配慮がされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●全単元を通して、色々な人やものと直接関わる活動や体験を多く取り入れている。さらにそれらを工夫したり改善したりする様子を示すことで、活動の良さや大切さに気付き、自分達の遊びや生活をより良くしていけるよう配慮されている。特に下巻『作ってあそぼうごくおもちゃ』では、工夫して作った自分のおもちゃを、友達の意見も取り入れて何度も改良し、さらに遊び方も工夫し発表していけるよう構成されている。▶下 80-95 ●自然を愛する心情を育むよう、まず自然とたっぴり関わる構成となっている。例えば上巻『あきをたのしもう』では、もの作りの材料採取のために野外に出るのではなく、まず季節を体で感じ、思い切り遊ぶよう構成されている。
③自分自身を見つめることを通して、自分の生活や成長、身近な人々の支えについて考えることができ、自分の良さや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活するようにする配慮がされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●単元を通してふり返りの場面を大事にしており、単元の終わりには活動とともに自分の成長をふり返るよう構成されている。 ●上下巻ともに成長単元を設定しており、上巻『ありがとうがいっぱい』では、家の仕事を知り、自分で挑戦することで、家の仕事やその大変さがわかり、自分の生活について考えるようにしている。さらに仕事に挑戦することで、家の人に感謝の気持ちをもつと同時に、自分でできることをこれからも続けようとする意欲がもてるようになっていく。▶上 100-101 ●下巻『わたしたんけん』では、2年生の自分をふり返るとともに、前の自分はどうかを思い出すことで、より一層自分の成長や周りの人との関わりが感じられるよう構成されている。 ●他者との関わりでは、常に「ありがとう」という感謝の気持ちを大切にしよう配慮されている。▶「ありがとう」という言葉が登場する場面 友達への感謝▶上 3、109、121、下 103、108 植物などへの感謝▶上 44、45、下 56、57 家庭の人への感謝▶上 94、98、99、100、下 100、109 社会の人への感謝▶下 24、30、31

内容の組織・配列

観 点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
①単元構成はわかりやすく、読み取りやすいものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●各単元は、それぞれテーマをもち連続した活動になっているので、活動展開がわかりやすく、見通しもちやすい構成になっている。 ●単元内の活動は、基本1活動1見開き単位で構成されており、見開き右下では次の活動へ繋げていく場面を示しているため、次の課題設定に無理がない。 ●登場する4人のキャラクターやその友達、先生を1人のイラストレーターが通して描いており、絵本のようにストーリーが読み取りやすい構成となっている。 ●ストーリー性をもたせ、単元ごとに主となるキャラクターを設定することで、友達や周りに関わり合いながら変容し、成長していく様子がわかりやすい構成になっている。 
②地域や学校、子どもの実態に応じた指導ができるように配慮してあるか。	<ul style="list-style-type: none"> ●ほぼ全ての単元が、時系列的に活動時期を限定せず、地域や学校の環境、子どもの意識などに応じて、自由に学習時期を組み替えたり、軽重を付けて指導したりすることができる非常に柔軟な構成となっている。 ●素材や教材が複数提示されているので、地域や学校の実態、子どもの興味に応じて選択したり、適宜自由に扱えるよう配慮されている。

内容の程度・分量

観 点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
①活動や体験の程度は、子どもの発達段階からみて適切か。また、子どもの発達の段階や特性を踏まえ、2学年間を見通して学習活動が設定されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●活動や体験の場が、上巻では学校や学校の周辺、下巻では地域へと広がっており、子どもの発達段階に配慮されている。 ●活動内容や教材については、発達段階を踏まえ、広がりや深まりのあるものに変化するよう工夫されている。「探検単元」では、上巻は「学校」、下巻は「まち」と設定することで、活動の場が広がるよう配慮されている。 ●「飼育単元」では、上巻はあたたかい動物に触れたり身近な生き物に親しんだりすることを中心とし、下巻は自分で見つけた生き物と継続的に関わることで、より深く調べたり、より大切にしたりする構成となっている。 ●「遊び単元」では、上巻は「季節に応じた自然を利用した遊び」、下巻は「動くおもちゃ作り」と設定することで、内容的な深まりが無理のない形で示されている。 ●記録の記述についても、上巻の4～5月では簡単な言葉による記述形式で示し、6月以降はより文章を書きこめる形式を段階的に示すことで、子どもの発達段階を考慮したものとなっている。また、上巻 p.34-35 のように、ノートの書き方を示すことで、多様な発達段階の子どもにも配慮している。
②全体および各単元の分量、配当時間は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> ●学習内容は一般的な公立小学校で扱える内容に絞って精選して示されているので、対象に関わる時間が確保された構成となっている。また、各学年・各単元の時間配当は、標準時数を基準に構成しており、ゆとりをもった活動が展開できるよう配慮されている。

内容の選択と扱い

観 点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
①子どもの主体的な活動を引き出すための工夫がされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの自発的な言葉をもとにしたリード文や、活動の楽しさと熱気を伝える写真やイラスト、親しみやすい4人のキャラクターと適切なふきだしなど、子どもの「自分でもやってみたい」という主体的な活動意欲が引き出されるよう工夫されている。 ●子どもの主体的な活動を支援する『学び方図かん』を上下巻の巻末に設けることで、子どもが常に参考にし、自ら活動を広げていけるよう配慮されている。▶上 125-136、下 113-128 ●子どもの主体的な活動を支援する『ものしりノート』や『ものしり図かん』などの資料ページが充実しており、子どもが自分で活動を広げていけるよう配慮されている。 ●活動に対して子どもの思いや願いを主にして進めることで、子ども自身が活動への必然性を持ち、自分の願いに対して子ども自身が決める、自己決定していく場を設けている。
②子どもの活動意欲を喚起する配慮や工夫がされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●各単元冒頭には、魅力的な写真やイラストを使った扉ページを設け、子どもの期待感や、これから行う活動について意欲を喚起できるよう配慮されている。また、上巻では幼保での体験や子どもたちの日常経験、下巻では1年生での体験や子どもたちの日常経験を扉ページのイラストやキャラクターのセリフなどで示すことにより、対話を促し、子どもの活動意欲を喚起する構成となっている。 ●本文ページも、臨場感溢れる写真と本格的で見入ってしまうような美しいイラスト、親しみやすい言葉で構成され、活動意欲が継続するよう配慮されている。
③スタートカリキュラムへの配慮がされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●上巻の冒頭には、『はじまるよ しょうがっこう』と『がっこうたんけん』を設け、入学したばかりの子どもが学校生活にスムーズかつ安心して適応できるよう構成されている。 ●上巻『はじまるよ しょうがっこう』は、子どもの発達段階を考慮し、情報量を限定したイラストと写真、短い言葉のみで構成されている。また上巻 p.10-11 では、子どもの登下校時の安全についてイラスト主体でわかりやすく示されている。 ●『がっこうたんけん』では、校内や校内で働く人達を知る中で、自分達の教室の位置を把握し、学校のどこからでも戻って来られるようになり、困った時はいつでも相談できる人がいることに気付くような構成となっている。
④活動展開は、見通しやすい構成になっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●各単元冒頭では、子どもの思いや願いを軸に、無理のない活動展開が設定されている。 ●各単元内の各活動が見開きページで完結するため、単元全体だけでなく一つひとつの活動も見通しやすい構成となっている。 ●各見開き左上には、活動のめあてと、子どもの思いや願いをもとにした言葉があり、主体的に学習に取り組めるよう設定されている。 ●各見開き右下には、子どもの思いや願い、期待感をもとにした言葉を配置し、次の活動への期待や意欲、見通しをもてるよう工夫されている。
⑤体験したことや学習したことをふり返り、自身の学びや変容を自覚できるような構成となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●活動ごとに単元がまとまっているので、学習したことをふり返りやすい構成となっている。 ●活動の記録については、あとでふり返れるように、活動時の自分の気持ちを含めてカードに表現・記録する方法を示している。また、自分の記録を友達が評価し、価値付ける構成になっているので、自分の変容に気付きやすくなるよう配慮されている。 ●上巻『わたしのあさがお』では、花を咲かせることができた自分をふり返るページで、これまでの活動の様子などを友達が評価する場面を示している。▶上 39 ●上巻と下巻の最終単元では、学年の終わりにこれまでの成長をふり返る活動が設定されている。 ●下巻最終単元『わたしたんけん』では、自分の変容を自分自身だけでなく、友達、家庭や身近な人々からも教えてもらう活動を組み込むことで、より深く自覚ができるよう工夫されている。

観 点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
⑥活動展開は、対話によって考えなどを広げたり、深めたりできるような構成となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●全体を通して、対話の場面を大事に扱っている。また子どもが対話しながら変容していく姿がわかりやすい構成となっている。 ●子ども同士の対話のヒントになるように、個と個の対話からグループでの対話などへ発展していく場面など、子どもの発達段階に応じた対話の場面を設定し、自分の考えを広げたり深めたりするような構成となっている。 ●上下巻末の『学び方図かん』では、「はなす」「はっぴょうする」などを扱っている。また発信だけでなく、どのように聞かかも示しており、子どもの対話活動について配慮されている。
⑦子どもの気付きを確かなものとしたり、新たな気付きを得られるように多様な表現や、学習活動を重視しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●活動を通して得られた子どもの気付きや思いを、カード、作文、手紙、劇などの様々な方法で表現できるよう配慮されている。特に『わたしのあさがお』では、カードの書き方や観察のしかたをわかりやすい言葉で例示し、表現力の基礎や、科学的な見方や考え方の基礎を育めるよう配慮されている。また下巻『わたしたちの野さいばたけ』では、より詳しいカードの書き方を示している。 ▶上 34-35、下 44-45 ●子どもたちが表現したものをもとに、身近な人々と伝え合う活動がされるよう配慮されている。
⑧見つける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動が行えるように工夫されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの学びを豊かにするために、多様な学習活動を掲載している。学習活動がより子どもに根づくように、上下巻末の『学び方図かん』には学習活動の際のポイントがわかりやすく示されている。 ●下巻の動くおもちゃ作りにおいては、繰り返し試行錯誤を行う場面を設定している。いくつもの学習活動を行いながら、子どもが自分の願いや思いに沿ったおもちゃを作成、工夫していけるよう構成されている。 ▶下 80-95 ●上巻 p.34 では、学習活動の例示として具体例を子どもの（わかりやすい）言葉で示している。
⑨自分自身への気付きを促す配慮がされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●具体的な活動の各場面で用いるカードには自己評価欄が設けられており、自分自身をふり返ることができるよう配慮されている。 ●各単元の終わりでは、記録などをもとにふり返る場面が設けられており、自分自身の成長に気付けるよう配慮されている。
⑩季節の変化への気付きが大切に扱われているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●上巻では、四季の遊びを3つの単元に分けて掲載し、その季節に出会える素材を使った遊びを中心に構成されている。また、p.116-117 では季節ごとの定点写真を掲載し、自然の様子や四季の変化に気付けるよう配慮されている。 ●上巻『あきをたのしもう』では、野外活動の展開として、まず秋の自然にどっぷりとひたって季節を味わう→落ちている木の実などの素材を使ってもっと遊びたい→秋の素材を使ったおもちゃ作り、という流れにすることで、秋ならではの活動を通して、他の季節との違いや変化に気付けるような構成となっている。 ●下巻では、季節ごとの街の様子イラストや各地の行事の写真を掲載しており、様々な視点から季節の変化に気付けるよう配慮されている。
⑪子どもの学びの深まりを作り出すために、考える場面や教師からの手立ての場面が組み立てられるように工夫されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちが自ら気付き、その質を高め深めていけるように、活動写真やキャラクター同士の会話が無理のない形で配置されている。 ●子どもたちに自ら気付かせていく場面と、『ものしりノート』のように教師が教える場面とを分けるように工夫している。 ●状況に応じて、活動を行う際の教室内の配置や、教師の支援の場面、板書例なども取り上げられている。

観 点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
⑫校外での学習を積極的に取り入れるようになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●上巻では、子どもの身近な遊び場である公園に行き、自然だけではなく公共物を使った遊びを取り扱っている。 ▶上 52-59、84-85 ●下巻『まちたんけん』『あの人に会いたいな』では校外に出て、地域のお店や人々と関わる活動を取り入れている。 ●下巻『わたしたちの野さいばたけ』では、地域で育てられる野菜を知るために、下巻『生きものと友だち』では生き物を探しにいくために校外に出かける活動を取り入れている。
⑬伝え合い交流する活動は大切にされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●上下巻を通して、4人の子どもたちの様々な交流場面が示されており、子どもの活動のヒントとなるよう構成されている。 ●各単元の活動では、身近な人々との関わりが盛り込まれており、活発な言語活動が行えるよう配慮されている。また、それらを通して、子どものコミュニケーション能力が育つようにも配慮されている。 学校の人▶上 20-25 公園やまちの人▶上 1、56、114-115、下 22-31、40-41、48 幼児▶上 93、122 異学年▶上 1、24、下 51、93-95 高齢者▶上 114-115、下 2、18-21、30-31、36-37 ●上巻 p.24-25 では、学習が終了した後も伝え合いの交流場面が続くよう構成されている。 ●上巻 p.121 では、「こんな気もちも気づいたよ。」として、自分の気持ちを伝えたり表現したりする例を示している。 ●巻末の『学び方図かん』では、伝え合う手段として、「はなす」「きく」「はっぴょうする」を示し、伝え合い交流する活動について配慮されている。
⑭素材や教材が、子どもの身近なもので指導しやすい内容になっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●手に入れやすい身近な素材や教具が取り上げられているので、子どもの興味を引き出すとともに、指導しやすい内容になっている。
⑮地域の特徴を生かした内容になっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●上巻 p.108-111 の雪の降る地域と降らない地域への対応のように、教材や活動を複数提示することで、地域の実態に合った活動に対応できるよう配慮されている。 ●下巻の『まちたんけん』では、自分達のまちの様子やそこに働く人達を知り、それをまとめ発表していく中で、自分達のまちを愛する気持ちを育めるよう配慮されている。地域の祭りや行事への参加、地域の施設などの具体例を示すことで、自分の地域へ目を向け、それを生かした活動に結び付くよう配慮されている。 ●『わたしたちの野さいばたけ』では、自分達の地域で育てられる野菜に目を向けるように配慮しているとともに地域野菜の紹介をし、自分達の地域にもあるかどうかなど興味を持つよう工夫している。
⑯飼育活動や栽培活動は2年間に渡って断続的な飼育、栽培を行い、動物や植物への関わり方が深まるように配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●飼育活動に関しては、上巻では子どもの発達段階を考慮し、主にあたたかい動物と触れ合う活動を行い、下巻では自分の身近な生き物を捕まえて継続して飼う活動とすることで、色々な不思議を見つけ出せるよう配慮されている。 ●栽培活動では、単元を通して子どもが対象と関わることで自分との関わりや愛着をもてるよう構成されている。上巻では同じ植物を一人ひとりが育てる活動、下巻では各自が自分の地域や育てる季節に合った植物を育てる活動を通して、植物についてよりくわしく知り、気付きや学びを深めていけるような構成となっている。

今日的な教育課題

観 点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
①図書館教育への配慮がされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 上巻『がっこうたんけん』では校内の学校図書館を見学したり、利用のしかたを聞いてみたりする活動が設定されている。また下巻『まちたんけん』では、図書館へのインタビュー活動を通して、図書館の利用のしかたがわかるよう構成されている。▶上 25、下 33、34-35 ● 図書を使って読んだり調べたりする場面が取り上げられている。▶上 5、102、下 20、41、51、64、96
②安全・防災教育への配慮はされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 登下校や、学習活動における安全への配慮が十分されている。「いかのおすし」や「おかしも」など、覚えやすい合言葉を示すことで、犯罪や災害から自分の身を守るための視点についてもふれている。 ● 上巻では、スタートカリキュラムにあたる「はじまるよ しょうがっこう」に登下校の際の注意点を掲載することで、子どもが最初に確認し、安全な登下校ができるよう配慮されている。▶上 10-11、下 126-127 ● 防災については、上下巻とも地震や津波などの天災から身を守る方法をイラストとテキストでわかりやすく示している。▶上 136、下 128 ● 学校生活だけでなく、夏休みや冬休みでも安全・防災を意識できるよう配慮されている。▶上 66-67、102、下 78-79、96 ● イラストや写真、マークでも安全や防災について示されている。▶上 15、52、85、111、下 9、14-15、62-63、84
③生命尊重や環境教育への配慮はされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 栽培・飼育単元では、生き物と直接触れ合ったり、一定期間育てたりする活動を通して、生命を尊重する心や、環境を大切に作る心が育つよう配慮されている。 ● 活動全体を通して、自然や生き物に対する敬意をもてるよう配慮されている。▶上 42-43、44-45、73、81、下 57、74 ほか ● 身近な廃品を利用したり、活動後の後片付けを示唆することによって、日常生活における環境への気付きや配慮、リサイクルの重要性を理解し、積極的に取り組む姿勢を育めるよう配慮されている。廃品の利用▶下 80-95 ゴみの分別▶上 89、下 89、124 活動後の後片付け▶上 89、91、120、123、下 57、89、95、124
④日本の伝統文化を大切にしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちが生活している地域社会での、様々な伝統的な行事を紹介しており、積極的に参加できるよう配慮されている。▶上 65、103、下 2-3、18-21、33、36-37、79 ● 伝統的な遊びを高齢者の方々に教えてもらう活動を取り入れることで、伝統的な遊びの良さを体感できるよう配慮されている。▶上 114-115
⑤国際理解教育への配慮はされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● イラストに海外で行われている行事を入れたり、さし絵・写真の中に外国人を登場させるなど、国際理解の視点への配慮が十分なされている。▶上 14、21、23、78、100、下 2-3、9、13、18-21、31、36-37、51、90、94-95 ほか ● まちの中にある多様な言語表記の案内板などを示す事で、国際理解の視点を自分との関わりで考え、深められるよう配慮されている。▶下 14-15
⑥道徳科との関連を考慮しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 上下巻ともに他者や自然を愛し、対話などを通じて他者を思いやる心を育むとともに、問題解決を通じて、自立し生活を豊かにできるような構成となっている。
⑦キャリア教育の配慮がされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 上巻『ありがとうがいっぱい』では、家の中での仕事についての活動を取り扱い、下巻『まちたんけん』では働いている人と関わることで身近な職業を知るように構成されている。 ● 下巻の『わたしたんけん』では、今の自分と身近な人達について理解し、自分の将来について考えていけるよう配慮されている。▶下 110-111 ほか

観 点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
⑧ ICT の活用への配慮はされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報の収集場面や発信場面においては、人に聞いたり本で調べたりする以外に、郵便、電話、インターネットなどの様々な手段を例示しており、情報教育の素地となるよう配慮されている。 ● 下巻『学び方図かん』では、インターネットの使い方を掲載し、利用する場合は大人と一緒に調べるなどの配慮がされている。▶下 125 ● デジタルカメラやタブレット、電子黒板などの ICT 機器を授業で使用している様子を取り扱っている。▶上 9、33、35、37、44、135、下 8、12、13、35、51、64、72、125 ● ICT 機器などで写真や動画を撮る際の注意や約束を記載している。▶下 8、25
⑨ QR コードで示されている内容は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> ● 「〇〇の作り方」「〇〇の使い方」などの動画や図鑑・資料で構成されており、子どもの主体性を阻害することのない適切な内容で構成されている。教科書掲載 QR コード一覧（本書 p.36）
⑩ 人権・福祉教育・男女平等への配慮はされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動を通して、障がいのある人、高齢者、身近な幼児など、多様な人々との関わりを大切に扱っている。▶上 23、56、79、93、114-115、下 3、9、14-15、17、30-31 ほか ● バリアフリーの視点から、身近な福祉関係の設備やそこで働く人々の存在に気付けるよう配慮されている。▶下 14-15、119 ● 掲載されている人物の写真・イラストについては、男女の比率に偏りが無いよう配慮されている。また、学校や家庭、地域のどの場面においても、男女の平等に配慮されている。
⑪ SDGs への関連は図れているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 「『誰一人取り残さない』持続可能で多様性と包摂性のある社会」の実現のため、生活科の学習の中でも「持続可能な開発目標（SDGs）」を意識できるよう配慮がなされている。自然資源の活用▶上 91 分別（リサイクル）▶上 89、下 89、124

総合的な学習の時間・幼保小連携・合科的な指導

観 点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
①合科的な指導、他教科と関連がとれるように工夫されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 全ての単元において、「話す」「聞く」「書く」といった国語的要素を重視した活動になっている。また巻末の『学び方図かん』では、これらのポイントをまとめてわかりやすく示している。 ● 主に表現活動を中心に他教科との関連が図られている。他教科で学んだことを、カードの記録や遊びを良くしようとする際に実際に生かして使ってみるなど、学習効果の高まりが相互に作用する構成となっている。算数▶上 43、45、89、120、下 52、54、69 音楽▶上 14、20、60、89、90 図工▶ノート全体、上 41、45、47、64、67、75、88-91、下 28-29、56、80-95 体育▶上 15、17、24、56-57、97、110-111、下 69、101
②幼保小連携や異学年交流に配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 特に上巻では、幼保小連携を重視した構成となっている。上巻「はじまるよ しょうがっこう」では、幼保から小学校にあがる子どもたちの不安を解消するよう、友達となかよくなったり、心配なことは先生に相談したり、小学校が安心できる場所であることが分かるようにイラストや写真で構成している。また、子どもたちの通学の安全を保障すべく、通学時の安全についても本単元で扱っている。▶上 1-11 ● 単元冒頭で、経験を出し合う場面で幼保にいた時の経験が出てくる場面（▶上 13、27）や、成長した自分をふり返る際、幼保の先生に聞いたり（▶下 105-106）、それを作文にまとめたりする場面（▶下 111）を取り上げている。 ● 異学年交流については、上巻では、上級生のお兄さんが出てくる場面（▶上 24）や、幼保との交流場面（▶上 93、122）を取り上げている。下巻では、わからないことを上級生に聞く場面（▶下 51）や、自分達が工夫した遊びに下級生を招待する場面（▶下 93、94-95）を取り上げている。

観 点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
③総合的な学習の時間との関連が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●各単元は、それぞれ学習テーマをもった課題解決型の活動で構成されている。 ●飼育・栽培単元や遊び単元では、探求していく姿や、協働して解決していく姿が見えることで、総合的な学習の時間の素地が養えるような構成となっている。 ●上巻『あそびにいこうよ』、下巻『まちたんけん』では、地域の自然や人に積極的に関わっていく中から、地域を愛し、これからもより深く関わっていかうとする姿を醸成することで、総合的な学習の時間の素地が養えるような構成となっている。
④中学年以降の社会科へのつながりに配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●上巻では校内図、下巻では校区の地図を使い、身のまわりの地域を空間的に考えられるよう配慮されている。▶上 23、下 6-7、8、29、30-31 ●下巻『わたしたちの野さいばたけ』では、野菜の栽培においても地域の人とのつながりに配慮した構成となっている。▶下 22-33、40-49、51
⑤中学年以降の理科へのつながりに配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●生命領域へのつながりは、飼育・栽培単元の活動の中で継続して記録をとり、それらの形態的特徴や成長変化に気付き、理科への素地を養えるよう構成されている。 ●地球領域へのつながりは、雨水や水たまり、水や石、どろ、かけ遊びといった遊びの中で、理科への素地を養えるよう構成されている。▶上 60-64、110-111、113 ほか ●エネルギー領域へのつながりは、上巻では、草や木の実、風で動くおもちゃを工夫して遊んだりする活動、下巻では、風やゴムで動くおもちゃについて試行していく活動の中で、理科への素地を養えるよう構成されている。 ●粒子領域へのつながりは、しおれた花で色水を作ったり、しゃぼん玉で遊んだりする中で、理科への素地を養えるよう構成されている。▶上 41、64

健康・安全・マナー

観 点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
①健康や衛生面での配慮がされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●上巻『はじまるよ しょうがっこう』、下巻『学び方図かん』に手洗いのやり方が掲載されており、子どもが健康で衛生的な学校生活や日常生活を送れるよう配慮されている。▶上 6-7、下 127 ●校外活動や、自然・生き物と触れ合う活動では、「手洗い・うがいマーク」や「注意マーク」を随所に示し、健康や衛生面について注意を促している。
②生活上必要なマナーについて配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●様々な活動の中で、社会的なマナーやルールが自然と身に付くよう配慮されている。▶上 1、10、15、17、20、52、56、84、下 9、24、25、35、65、75、78、126 ほか ●ICT 機器を使用する際の注意やインターネットの使い方についても取り上げられている。▶上 135、下 8、25、125 ●教科書全体を通して「ありがとう」という感謝の気持ちを伝えることをとても大切にしている。▶上 3、44-45、100、109、121、下 30-31、57、72、103、108
③子どもの生活における安全について配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●屋外活動の際に気を付けることや対処法などを「やくそく」として示すことで、子どもが安全に活動できるよう配慮されている。 熱中症対策▶上 62、上 66、下 78 安全対策▶上 52、111、下 9 危険な生物や植物▶上 85、下 63 ●夏休み、冬休みの過ごし方を示すことで、長期休みでも安全に生活できるよう配慮されている。▶上 66-67、102、下 78-79、96-97

表現・表記

観 点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
①イラスト、写真などは効果的に表現されているか。	●臨場感あふれる写真で、子どもの活動意欲が引き出されるよう配慮されている。また、魅力的なイラストで、活動内容や活動の流れがわかりやすく表現されている。
②紙面構成は工夫されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●専門家指導のもとユニバーサルデザインに配慮されている。本文は見開き単位で構成され、本文の見出しやカードの位置を揃えることで、子どもにわかりやすく表現されている。 ●見開き右下に、次の活動を示唆するイラストを配置することで、子どもの活動への意欲をかき立てる構成となっている。
③表記・表現は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> ●表記・表現は子どもの発達段階や国語の学習との関連が十分考慮されるとともに、子どもの負担にならないよう配慮されている。 ●配当漢字とカタカナは、1年の二学期以降（夏休み明け）に相当する単元から使用されており、漢字には全て振り仮名が付けられている。

印刷・色覚特性・製本

観 点	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ の特色
①印刷は鮮明か。	●白色度の高い用紙に、非常に鮮明で見やすく印刷されている。
②色覚の特性やユニバーサルデザインを配慮しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●多様な色覚をもつ子どもに配慮し、公的機関の専門家指導のもとカラーユニバーサルの方眼法に則った、見やすくわかりやすい色使いが工夫されている。また本文では、ユニバーサルデザインフォントを使用し、視認性と読みやすさの向上が図られている。 ●教科書に直接書き込むページでは、利き腕を問わず快適に書けるよう配慮されている。▶上 65
③用紙や製本は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> ●判型は、子どもの興味・関心を喚起するために大判化（A4 変形判）を実現する一方で、軽量化にも配慮し、軽くて強度の高い用紙が使用されている。 ●製本は低学年の子どもの使用を考慮し、堅牢さは堅持しながら、開きやすく、のどの部分が見やすくなっている。表紙には厚い用紙が使われ、汚れや濡れに強いコーティングが施されている。